

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第321回

須江 航

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年9月5日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉

『青春』って すごく密なので。



須江 航は、埼玉県さいたま市出身の野球指導者及び情報科教諭。令和4年度夏の甲子園で優勝した仙台育英高校の監督である。

Column

みなさんの記憶に新しい今年の夏の甲子園で優勝した仙台育英高校監督の優勝インタビューでの言葉です。涙を流しながら語ったその姿に胸を打たれた人も多いのではないでしょうか。私もその一人です。

<インタビューでのコメントの一部>

「高校生活ってというのは、何て言うか、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違う。青春ってすごく密なので。でもそういうことは全部ダメだダメだと言われて。活動してもどこかでストップがかかって。どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で、でも本当に諦めないでやってくれた。」

現在の私も高校生の部活動に携わる身として、『僕らはただ一生懸命部活動をやりたいただけなのに…』という今回の言葉の通り“密な青春”を求めてもなかなか思うようにいかず、何度も下を向いてしまいそうになりそうな自分を必死に支える姿を見てきました。これまで使ってきた回数の何倍も『仕方ない』という言葉がこの2~3年で彼らに使いました。彼らも何度も仕方ないという言葉を使っていて、指導者として『このまま悪い意味で諦めのいい人間、挑戦することを拒む人間になってしまうのではないか』という不安に陥ることや、悲しむ彼らの表情を見ながら私自身もいたたまれない気持ちになることがあります。

青春時代というものは何も部活動に限った話ではありません。そういう意味では高校生であるうちに過ごさなければいけないものでもないのかもしれませんが、しかし、夢中になれる時間は何度でも味わうべきであり、少しでも早い方がいいと私は実体験から思います。実現するには本当に難しい現在の状況ではありますが、ほんの少しでも密度が上がる材料を見つけられるように視野を広げてほしいと願っています！